

①事業の基礎情報

事業名	居場所充実事業			担当部・グループ名	こども未来部 こども育成グループ					
実施期間	平成 26 年度～平成 29 年度			担当 GL 氏名	都築 真哉					
新規・継続の別	継続事業			電話番号(内線)	52-1111(内線 364)					
縦(計画(基本計画)体系)	個別目標	(5)地域ぐるみで子育て・子育てを支えます			款	3款 民生費 10款 教育費				
	こんなことに取り組みます	世代間や異年齢同士の子どもの交流機会を豊かにし、子どもの自主性・社会性を育む居場所を充実します。			項	2項 児童福祉費 5項 社会教育費				
	みんなで目指すまちづくり指標名	子どもを産み、育てやすいと感じている人の割合			目	3目 家庭支援費 4目 青少年育成・活動支援費				
	現状値(H25)	66	実績値(H26)	65	実績値(H27)		実績値(H28)		目標値(H29)	74

②事業の概要

目的 (何をどうするために)	・日中、保護者が就労している家庭の児童(特に高学年)を含め、長期休暇中でも、保護者が安心して送り出せる居場所を提供し、友達と交流する機会を増加することで、自主性や社会性の成長につなげるため。		
対象(誰・何を対象に)	小学生	対象の数量	3,111 人
最終目標 (最終的に何がどうなれば達成か)	・友達を始め、地域の大人や異年齢の子どもと交流する機会がある居場所を設け、その中で子どもがのびのびと活動することで、様々な人との触れ合いを通じて、子どもの自主性や社会性が成長する。		

③事業にかかる事業費概要

平成 26 年度 (当初)		決算	主な内容		
事業費総額 (千円)		4,500	4,098	・放課後居場所運営委託料 3,654 千円 ・放課後居場所事業指導員謝礼 183 千円 ・児童センター夏季対応臨時職員賃金 261 千円	
財源内訳	一般財源	1,784	1,473		
	特定財源	国・県支出金	2,716		2,625
		その他	—		—
補助事業・単独事業の別		補助事業	補助事業		



▲放課後居場所事業のようす



▲サマーキッズのようす

④平成 26 年度の実施内容（目指す姿の実現に向けて、どんなことに取り組んできたのかを整理する）

	何を・どうした ※箇条書きで記載する	いつ(年月)	アウトプット
実施内容	① 市内5つの小学校で放課後居場所事業を実施した。	H26.4～	のべ参加児童数 19,672人
	② 放課後居場所事業において、雨天中止時等の対応を検討した。	H26.4～	平成27年4月 受入開始
	③ 夏季休暇において、昼間保護者がいない児童を対象に、弁当持参で児童センターを利用することができるサマーキッズを実施した。	H26.7～8	のべ利用児童数 881人
進捗状況	平成26年度に計画していた内容については順調に実施することができた。		
実施内容に対する成果 (事業の自己評価)	☆ 平成27年度からの年間を通じた居場所事業のための雨天時や長期休暇時の対応について実施の見込みができた。		

⑤課題と今後の取組みの方向性（平成26年度を振り返り、課題を抽出し、今後の取組みの考え方を整理する）

課題	今後の取組みの方向性
<u>(1) 児童クラブ制度改正への対応</u> ・国の放課後児童クラブの制度が見直され、全ての学年の小学生が対象とされたため、その対応が必要である。	・児童クラブだけでなく、地域の大人や異年齢の子どもと遊ぶ居場所事業も活用できる環境を整え、学年や成長に応じて自分の居場所を選択できるようにする。
<u>(2) 地域での世代間の関わりの拡大</u> ・子どもの居場所では、地域で世代を超えた交流をする機会が必要である。	・地域の達人等の協力を得て、様々な人との触れ合いの場がある居場所となるようにする。

⑥課題解決に向けた平成27年度の具体的なアクション（案）

	何を・どうする ※箇条書きで記載する	いつまでに(年月)
計画(案)	①各小学校区において、雨天時や長期休暇にも対応する年間を通じた居場所事業をスタートする。	H27.4
	②地域の達人等により参画者拡大を図り、地域との関わりを推進する。	H27.6

特記事項	
------	--